

鍼刺激が免疫応答を制御するメカニズム解明



【池袋キャンパス】ヒューマンケア学部 鍼灸学科 講師

小峰 昇一 Komine Shoichi

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: 東洋医学・鍼灸・疾病予防・概日リズム・免疫応答



研究の概要

SDGs 目標 3: すべての人に健康と福祉を

東洋医学には歴史的に積みあがった疾病予防効果の知識“経験知”は豊富にあるが、西洋医学と比較すると効果が未検証なために治療として使いこなせていないのが課題である。東洋医学のなかでも鍼治療については、“健康度を高める”ための効果を期待して治療がなされるが、その科学的根拠は十分とは言えない現状である。鍼治療効果の誘導機序を科学的に検証して研究分野における“科学知”とすることで、現代医療の治療補完・補助が可能になることが期待される。しかし、その治療機序は未だ不明であるため、解明が急務である。この現状の中で、現在、当研究室で扱っている主なテーマは次の二つである。

【臨床研究】ヒト足三里（ツボ）への鍼通電刺激は血球エンドトキシン耐性に影響を与えるか？（図1）

【基礎研究】マウスにおける鍼通電刺激は生体概日リズム位相を変化させるか？（図2）

二つのテーマを中心に研究を展開し、鍼治療が疾病予防効果を誘導するメカニズム解析を進展させる。

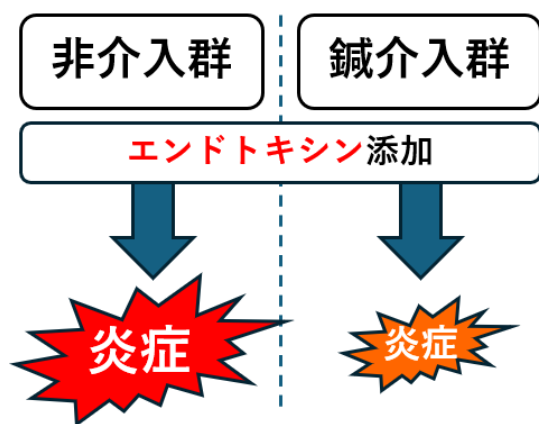


図1. 鍼刺激はエンドトキシン耐性を増大し、血球炎症応答を抑制する？

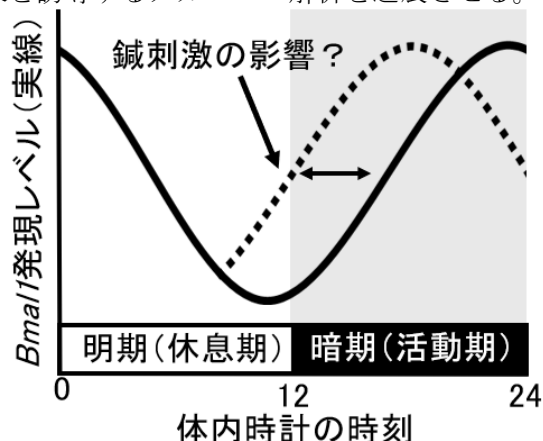


図2. 鍼刺激は時計遺伝子(*Bmal1*)発現量を前進させる？

実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

当研究室に属する学生は研究活動を通じて鍼治療の本質を探究し、臨床に応用できる「実学」を実践している。この「実学」により、知識や治療スキルを持ち、アンメット・メディカル・ニーズへの対応もできる鍼灸師を輩出することにつながることが期待される。

当研究テーマの特徴として次の点が挙げられる。①鍼刺激の介入効果について基礎研究を基盤に解明する点。②エンドトキシン刺激に由来する疾患（生活習慣病、アレルギー疾患、COVID-19 後遺症）等に対する有用性を検証できる点。③鍼治療による症状緩和により投薬量の減少を目指せる点。④他大学と連携して鍼刺激の効果を多面的に検証・研究展開している点。

当研究は基盤研究であり、鍼治療が誘導する“未病治”の解明が期待できる。また、臨床研究は鍼灸師の業の範囲内でおこなっており、安全性は担保されているため、健康作りを目指す社会に、即座に当研究の知見を実装可能であることを意味する。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

【科研費】（基盤研究 B）「鍼通電刺激がオープンウィンドウ現象に与える影響と随伴する上気道感染の予防効果検証」

【論文】・「Effect of Electroacupuncture on Delayed-Onset Muscle Soreness Induced by Eccentric Exercise in Young Untrained Men」